

下諏訪町郊外の和田峠に近い樋橋で幕末に起こった和田嶺合戦で戦死した、水戸藩の尊王攘夷派浪士を弔った塚。天狗党と呼ばれた浪士一行は元治元(1864)年、筑波山で挙兵し、約1000人で攘夷の早期実行を求めて京都を目指した。その途中、和田峠で幕府側の高島・松本両藩の連合軍と衝突した戦いを和田嶺合戦と呼ぶ。連合軍側が負けたが、天狗党側に10人余り、松本・高島両藩に約10人の戦死者が出たと伝わる。

浪人塚は、明治3(1870)年に高島藩によって建立され、水戸に照会して名前が分かった6人の名が刻まれている。以来、樋橋の住民が塚を管理し、供養を行ってきた。現在も

毎年11月上旬、町関係者と水戸市関係者が参列する墓参りが行われている。今年(160年祭)に当たり、10月末にシンポジウムを予定している。

水戸浪士の墓 (浪人塚)

至 上 田

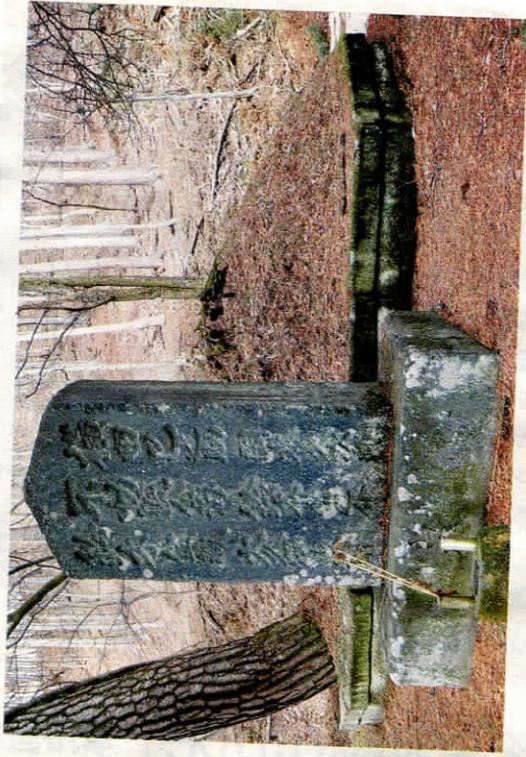


至 下 諏 訪 町 内

1971年3月5日指定

所在地/砥沢口

所有者/樋橋



下諏訪町文化財(史跡)

■ 水戸浪士の墓(浪人塚) (下諏訪町)